

演目 『高砂』

行番	役	詞章	現代語訳	トークのヒント
1	シテ	げに様々の舞姫の	様々な舞姫が	
2		声も澄むなり住の江の	歌う声が澄み渡る、この住之江。	
3		松影も映つるなる	住之江の松の青い影が海の波に映る。	
4		青海波とハこれやらん	名の通り青海波とはこれのことだ。	青海波：盤渉調の舞楽。
5	地	神と君との道すぐに	神の恵みも豊かで、大君の政道正しい	
6		都の春に行くべくハ	この御代の春に、都へ行くのは	
7	シテ	それぞ還城楽の舞	それには還城舞がふさわしい。	還城舞：舞楽の曲名、都に帰る意味。
8	地	さて万歳の	こうしておめでたい	
9	シテ	小忌衣	小忌衣を着て	小忌衣：狩衣風の単上衣。大嘗祭、新嘗祭等で舞人や祭官が着る祭服。
10	地	さすかひなにハ	舞のさす手は	
11		悪魔を拂ひ	悪魔を払い、	
12		をさむる手にハ	引く手には	
13		寿福をいだき	寿福を抱き	
14		千秋楽ハ民を撫で	千秋楽を奏しては民を愛撫し	千秋楽：盤渉調の楽曲。
15		萬歳楽にハ命をのぶ	萬歳楽は舞っては寿命を延ばす。	萬歳楽：舞楽の曲名。
16		相生の松風颯々の聲ぞ楽しむ颯々の聲ぞ楽しむ	神が袖を翻す音も、相生の松へ吹き渡る風音も颯々と声立てて全てが楽しみに浸るのである。	

【高砂】

高砂は住吉明神がシテの大変おめでたい曲。

「千秋楽」から終わりまでの部分は

付祝言として会の最後に謡う事が多いです。

江戸時代、武家の式楽だった能。

能が上演された後、アンコールとして

仕舞が上演されました。「おしまい」の

語源とも言われています。

ご来場の皆さまのご健勝、ご多幸を

祈念しまして「高砂」の仕舞で「おしまい」と

させていただきます。